

『第31回益富地学賞』募集要項

主催 公益財団法人 益富地学会館

後援 産経新聞社

◇ 主 旨

公益財団法人 益富地学会館は、地学（地球科学）に対する関心や理解を深めると共に、地学の研究を奨励することを目的に、第31回『益富地学賞』を募集します。

近年は、人々が野外で自然と触れあって観察や研究する機会が少なくなっているのではないのでしょうか。自然の真の姿を知るためには、自ら自然の中に分け入って、その中から発見した疑問やふしぎを解明してゆく力を養っていくことが大切と考え、独自の研究をしている人がより高みに進めるきっかけとなるコンクールを開催します。地学を愛する多くの方々の『益富地学賞』への応募をお待ちしています。

◇ 募集内容

《部門Ⅰ》 研究部門

地球科学（地質・火山・地震・岩石・鉱物・古生物 など）の分野に関する研究論文。天文・気象は除きます。

《部門Ⅱ》 標本部門

鉱物、化石、地質に関する標本。学術的、博物学的価値がある標本のほか、地学教育的な付加価値がある組標本（特定の目的の為に収集された、統一性のある複数の標本からなるセット標本）も対象となります。

《部門Ⅲ》 写真部門

地球科学（鉱物・岩石・古生物・火山・地質現象・地形や景観など）の分野に関する写真。天文・気象は除きます。

《『地学研究』論文部門》

日本地学研究会発行の『地学研究』に掲載された論文の中から選考されます。『地学研究』への投稿は日本地学研究会会員に限られます。原著論文だけではなく、アマチュアによる独自性のある研究も選考対象になります。

◇ 応募資格

《部門Ⅰ》 小学生・中学生・高校生

《部門Ⅱ》 不問

《部門Ⅲ》 不問

◇ 応募にあたって

《部門Ⅰ》 研究部門

- 1) 研究内容は、野外での調査や観察を伴うものに限ります。単なる先行研究等の文献のまとめや、インターネットや書籍から得た情報をそのまま引用したものは対象外です。
- 2) 応募は個人に限ります。共同やグループでの研究は、『地学研究』に投稿し、『地学研究』論文部門に応募してください。
- 3) 研究論文は日本語のもの限定です。論文の用紙はA4が規定サイズです。添付図表等のサイズは規定しませんが、極端に大きすぎるものなど、規定にそぐわないものは受理できません。論文の用紙種類は規定しません。頁数や図表の数についても規定しませんが、不必要な頁、図表などが多すぎる場合は減点評価となりますので、注意してください。また、日本語で400字程度の、研究についての要約を付けてください。要約の用紙やサイズは不問です。
- 4) 研究の対象となった『標本（鉱物・岩石・化石など）』を添付することが望ましいです。ただし、必要以上に添付されている場合は減点評価となります。
- 5) ひとり1研究のみ応募可能で、1研究以上応募した場合は、失格とします。
- 6) 応募研究の報告文と標本などが別のファイルや容器に分かれている場合は、全てのものへ必ず氏名を記入してください。
- 7) 1)～6)の条件と応募方法の規定をみたしていない研究は受理できません。

[部門Ⅰは、小学生・中学生・高校生のみ応募できます。一般は『地学研究』論文部門から選出されます。]

《部門Ⅱ》 標本部門

- 1) 鉱物、岩石、古生物など地学と関連性のある標本が対象ですが、原則、購入した標本は対象としません。野外で応募者自身によって採取されたものが特に高く評価されます。
- 2) 標本ラベルには少なくとも、名称（和名・学名など）・採集地・採集日を記入してください。
- 3) 標本には、必ずテーマを表記し、標本ラベルとは別に日本語400字以内の解説を添付してください。この解説文の内容についても、評価の対象となります。解説文の用紙のサイズと種類は規定しません。
- 4) 標本箱は原則、サイズの上限を50×40 cm、厚さ10 cmとし、3箱以内にまとめてください。但し、大型の標本はその限りではありません。
- 5) ひとり2件まで応募可能で、2件以上応募した場合は、失格とします。
- 6) 複数に分かれている標本箱や解説文には、それぞれに必ず氏名を記入してください。

《部門Ⅲ》 写真部門

- 1) 写真には日本語で400字以内の解説を添付してください。この解説文の内容も、評価の対象になります。解説文には必ず、題名、撮影場所、撮影日、撮影者を明記してください。解説文の用紙のサイズと種類は規定しません。
- 2) 応募写真は、A4サイズの写真用紙にプリントした現物を提出してください。デジタル写真の場合は、現物と共に電子データも提出のこと。USBに保存して、或いはメール添付やクラウドストレージサービスで転送など手段は不問です。
- 3) 応募は一人3作品までです。写真1枚を1作品とみなします。複数の写真を組み合わせ1枚にして応募することは可能です。
- 4) 写真の裏には1作品ずつ、題名、応募者氏名を直接記入または書いたものを貼付けしてください。複数応募の場合はそれぞれに異なる題名をつけて下さい。同じ題名で異なる作品は審査が出来ません。応募1作品ごとに審査をいたします。撮影対象物の上下が分かりにくい場合は、作品裏に『上↑』を記入してください。

※写真の撮影にあたっての注意

- ◎写真（特に露頭の写真）には大きさのわかるスケール、或はそれに代わるもの（ハンマー、人、車など）を写しこんでください。どうしても大きさのわかるものが入らなかった場合には、解説の中で大きさを具体的に示してください。
- ◎人物が写っている場合には、肖像権や個人情報等に充分注意を払ってください。

《地学研究論文部門》

『地学研究』に掲載された論文から選考します（『地学研究』投稿規定参照）。応募票の提出は不要です。

提出物	《部門Ⅰ》 研究部門	研究論文 (A4)	添付標本 (あれば)	要約文
	《部門Ⅱ》 標本部門	標本	標本ラベル	解説文
	《部門Ⅲ》 写真部門	写真用紙 (A4) にプリントした写真	電子データ (あれば)	解説文

◇応募方法

応募研究・標本・写真は、規定の応募票を切らずに必ず添付し、益富地学会館に郵送（宅配便含む）または直接持参してください。応募票は益富地学会館のホームページからダウンロードできます。

応募は未発表のものに限ります。

◇提出先：〒602-8012 京都市上京区出水通烏丸西入中出水町394 (公財) 益富地学会館『益富地学賞』係

◇募集期間：2023年11月1日～11月30日(必着)

◇審査

12月上旬に、益富地学賞審査委員会において審査し、各部門の賞を決定します。

部門Ⅱと部門Ⅲは各々学生の部と一般の部に分けて審査します。

<益富地学賞審査委員会>

第31回『益富地学賞』審査委員(予定)

委員長：横山 卓雄(同志社大学名誉教授・益富地学会館評議員会議長)

委員：下林 典正(京都大学教授)

委員：吉田 光廣(京都市青少年科学センター元指導主事)

委員：藤浦 淳(学校法人清風学園常勤顧問)

委員：松岡 廣繁(京都大学助教)

委員：磯部 敏雄(中学校教員・益富地学会館運営委員)

委員：福井 清子(益富地学会館運営委員)

委員：藤原 卓(益富地学会館上席主任研究員)

委員：大井 修吾(益富地学会館主任研究員)

◇各賞

部門	対象	賞名および副賞		
《部門Ⅰ》 研究部門	小中高生	◆優秀賞 表彰状・副賞(3万円)	◆科学奨励賞 表彰状・副賞	◆特別賞 表彰状
《部門Ⅱ》 標本部門	学生(小中高)	◆優秀賞 表彰状・副賞(1万円)	◆佳作 表彰状	◆特別賞 表彰状
	一般	◆優秀賞 表彰状・副賞(1万円)	◆佳作 表彰状	
《部門Ⅲ》 写真部門	学生(小中高)	◆優秀賞 表彰状・副賞(1万円)	◆佳作 表彰状	◆特別賞 表彰状
	一般	◆優秀賞 表彰状・副賞(1万円)	◆佳作 表彰状	
《部門Ⅰ～Ⅲ》	小学生～一般	産経新聞特別賞		
《『地学研究』論文部門》	地学研究会会員	◆『地学研究』論文賞 表彰状		

◎参加賞：部門Ⅰ、部門Ⅱ、部門Ⅲの審査対象者全員に進呈いたします。

◇結果発表・表彰式

<結果発表>

審査後、直接通知します。

<表彰式>

2023年1月中の日曜日に、京都府京都市左京区岡崎公園、京都市勧業館“みやこめっせ”で実施予定。

<受賞研究等の展示>

表彰式会場、益富地学会館（京都市上京区）、石ふしぎ大発見展・大阪ショー（大阪市天満橋 OMM ビルで実施）で展示する。

◇返却

《部門Ⅰ・Ⅱ》 研究・標本は、後日返却します。応募者は審査結果通知後に各自で受け取りに来るか、もしくは着払いでの返送を希望するかを応募の際に選択して下さい。入賞した研究・標本は、益富地学会館等で展示されるため、返却は展示終了後5月なかごろになります。

＊送付で返却の場合には、応募研究・標本の破損などに関して、当会館は一切の責任を負いません。

《部門Ⅲ》 写真と電子データ、記憶媒体は原則として返却しません。

◇個人情報について：当会館の研究応募で提供された個人情報は、承諾なく第三者に提供しません。ただし、入賞発表や表彰式などのほか、広報媒体への露出や研究展示、益富地学会館が発行する『地学研究』『館報』などで公表することがあります。



主催・お問合せ先

公益財団法人 益富地学会館

〒602-8012 京都市上京区出水通烏丸西入中出水町 394

TEL 075-441-3280 FAX 075-441-6897

E-mail : info@masutomi.or.jp